

Music

アロハのバイブがたっぷり入ったサイケデリックバンド 『Quicksilver Messenger Service』

Text & Photo: George Cockle
文・写真/ジョージ・カックル



サーファーにとって、ハワイはパラダイスだ。波もいいし、気候もいい。海の色も夢のようで、自然が多く、空気もいい。そしてそれらの上に成り立っているハワイの人々と彼らのアロハスピリットは、やっぱり一番感動的だ。サーファーだけじゃない。普通の観光客もハワイにいる間はアロハタイム、アロハバイブで過ごすから、誰もがリラックスしている。それがハワイが愛される理由だ。

俺はアロハバイブがたっぷり入った、ハワイで生まれたホームグロウンの音楽が大好きだ。でもハワイを訪れてレコーディングをしたアーティストのアルバムも、気に入るものが多い。そういうレコーディングもアロハバイブが彼らの音楽にしみ込んでいる感じがするんだ。今回はそんなアロハバイブたっぷりのアルバムの話をしよう。

俺は1976年にサンフランシスコのサイケデリックバンド『クイックシルバー・メッセンジャー・サービス』の再結成ライブを見るチャンスがあった。このバンドは65年に結成され、たびたびメンバーチェンジをしたあと、1976年にもう一度オリジナルメンバーでライブをした。ちなみに前座はランナウェイズ。下着姿で歌う女の子バンドとの組

み合わせは不思議だったね。ところで、『クイックシルバー・メッセンジャー・サービス』のメインボーカルはディノ・バレンティという。彼はバンドがデビューする直前、マリファナ所持で逮捕され、最初の3枚はレコーディングに参加できなかった。しかも彼が西海岸のバンド『ヤングブラズ』の世界的ミリオンセラー『Get Together』の作詞作曲家だったことはもっと知られていないだろう。ディノはその頃『チェット・パワーズ』というペンネームを使っていたので彼のことを分かっている人はあまりいなかった。しかし残念ながら、ディノはその曲の権利を売ってしまった。マリファナ所持で捕まったときの弁護士の手数料のためね。しかし、彼はスーパーヒットを書けるすばらしいミュージシャンには変わらない。

彼らは1965年からサンフランシスコに住んでいたが、このディノがメンバーに戻ってきた時、皆でハワイに行き、2枚のアルバムを作った。なぜハワイか？ ひとりもサーファーはいなかったけど、きっと誰も邪魔しない場所に行ってゆっくりアルバムを作りたいかったんだろう。彼らはハレイワのオパエルア・ロッジを借りて、何ヶ月間もアルバムを

作ることに集中した。レコーディングが終わったら、完成した曲が多過ぎたために、1970年に2枚のアルバムを発売した。『Just For Love』を8月に、そして『What About Me』を12月に。『Just For Love』のなかには彼らの唯一のヒット曲『Fresh Air』が入っていた。この曲は新鮮なカリフォルニアの空気を吸おうと歌っている。しかし彼らが歴史に残るのは、2枚目のアルバム『What About Me』のタイトルソングに違いない。この曲は僕達若者をどうするのかと社会に問いかけた。エコや反戦のことをテーマにしているので、それほどヒットにはならなかったが、今ではアメリカンロックのスタンダードになっている。

この2枚のアルバムを聴くと、サンフランシスコのサイケデリックミュージックとハワイのアロハバイブがぴったりと息が合っているのがわかる。サイケデリックに乗って、ハワイのあの気持ちのいい空気感を感じさせてくれるんだ。



ジョージ・カックル ● 60～70年代のロックに精通し、ラジオ・パーソナリティとしてインターFMや東京FMで活躍中。鎌倉出身・在住。波乗り歴40年+の親父サーファー。
www.whatupmusicinc.com